

平成29年度(第47回)
中部オープンゴルフ選手権競技

日 程：平成29年8月16日(水)・17日(木)・18日(金)
場 所：愛知カンツリー倶楽部 東山コース

中部ゴルフ連盟

ロ ー カ ル ル ー ル

1. アウトオブバウンズ(規則27-1)
アウトオブバウンズの境界は白杭をもって標示する。
2. ラテラル・ウォーターハザード(規則26)
ラテラル・ウォーターハザードは、赤杭または赤線をもってその限界を標示する。線と杭が併用されている場合は線がその限界を標示する。
3. 修理地(規則25-1)
修理地は青杭を立て、白線をもってその限界を定める。ただし、次のものを含む。
(a) 張り芝の継ぎ目；付属規則 I (A) 3 e を適用する。(ゴルフ規則164ページ参照)
スルーザグリーンの張り芝の継ぎ目(その芝自体を除く)は修理地とみなされる。しかしながら、継ぎ目がプレーヤーのスタンスの障害となっても、それ自体は規則25-1に基づく障害とはみなされない。球がその継ぎ目の中にあるか、触れている場合、またはその継ぎ目が意図するスイング区域の障害となる場合、規則25-1に基づいて救済を受けることができる。張り芝の区域内のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目とみなされる。**このローカルルールの違反の罰は、2打。**
(b) パッティンググリーンの前後のペイントマークを含み、スルーザグリーンの芝草を短く刈った区域にあるヤーデージマーキングペイントが球のライ、意図するスイング区域の障害となる場合、規則25-1 b の救済を受けることができる。(スタンスは除く)
4. 動かさない障害物(規則24-2)
(a) 排水溝
(b) 人工の表面を持つ道路に接した排水溝(その道路の一部とみなす)
(c) 動かさない障害物と定義づけされている区域に近接し白線が引かれた区域は、修理地ではなく、その障害物の一部とみなす。
(d) 電磁誘導カート用の2本または3本の人工の表面を持つ軌道は、全幅をもってカート道路とみなす。球がこのカート道路の上にある場合、プレーヤーは規則24-2 b (i) の救済を受けなければならない。**このローカルルールの違反の罰は、2打。**
(e) コース内の防球ネットが動かさない障害物となる場合、その障害物の上を越えたり、中や下を通さずにニヤレストポイントを決めなければならない。**このローカルルールの違反の罰は2打。**
5. パッティンググリーン上の芝張り替え跡
パッティンググリーン上の芝張り替え跡は古いホールの埋め跡と同じステータスを持ち、規則16-1 c に基づき修理することができる。

6. 恒久的な高架ケーブル

15番・17番ホールにおいて、球が高圧送電線に当たった場合は、そのストロークを取り消し、罰なしに再プレーしなければならない(規則20-5)。その球をすぐに取り戻せない場合は、別の球に取り替えることができる。**このローカルルールの違反の罰は、2打。**

7. 地面にくい込んでいる球の救済

スルーザグリーンで、地面に球がくい込んでいるときは、その球は罰なしに拾い上げてふき、ホールに近づかず、しかも球の止まっていた箇所にできるだけ近い所にドロップすることができる。ドロップの際、球はスルーザグリーンのコース上に直接落ちなければならない。

注：「くい込んだ」とは、球が自らのピッチマークの中に入り、球の一部が地面の下にある場合をいう。「くい込んだ」とみなされるために球は必ずしも土壤に触れている必要はない(例えば、草やルースインペディメントなどが球と土壤の間に介在することがある)

例外：1. 球が芝草が短く刈っていない区域の砂地にくい込んでいる場合、プレーヤーはこのローカルルールに基づく救済を受けることはできない。
2. このローカルルールに記載の状態以外の状態による障害のためにストロークを行うことが明らかに無理な場合、プレーヤーはこのローカルルールによる救済を受けることはできない。

このローカルルールの違反の罰は、2打。

8. パッティンググリーン上で球が偶然に動かされた場合

規則18-2と20-1は以下の通りに修正される。

プレーヤーの球がパッティンググリーン上にある場合、その球やボールマーカがプレーヤーやパートナー、またはそのいずれかのキャディーや携帯品によって偶然に動かされても罰はない。その球やボールマーカは規則18-2や規則20-1に規定されている通りにリプレースされなければならない。

このローカルルールはプレーヤーの球やボールマーカがパッティンググリーン上にあり、いかなる動きも偶然である場合にだけ適用する。

注：パッティンググリーン上のプレーヤーの球が風、水あるいは重力などの他の自然現象の結果として動かされたものと判断された場合、その球はその新しい位置からあるがままの状態プレーされなければならない。そのような状況で動かされたボールマーカはリプレースされることになる。

9. 動かせる障害物

場内整理用の縄張施設は動かせる障害物とする。

10. 臨時の動かさない障害物

1. 定義

臨時の動かさない障害物(以下T I Oという)とは恒久的なものではない人工の物であって、競技開催に伴って臨時に設けられることが多く、固定されていたり容易には動かさないものである。

T I Oの中には、例えばテント、スコアボード、観客席、テレビ塔やトイレなどが含まれるが、これに限らない。

T I Oを支えるワイヤは、そのT I Oの一部である。ただし、委員会がそれを空中に張られた動力線・ケーブルとして取り扱おうと宣言している場合を除く。

2. 障害

次の場合にT I Oによる障害が生じたという。

- (a) 球がT I Oの前にあり、しかもそれに近接しているために、そのT I Oがプレーヤーのスタンスや意図するスイングの区域の障害になる場合。
- (b) 球がT I Oの中、上、下にある、あるいはT I Oの後ろにあるために、そのT I Oの一部が球とホールのちょうど間に介在していて、かつプレーの線上にあるとき。このような介在が生じている箇所から、ホールから等距離に沿って1クラブレンジ以内に球があるときも障害が生じていることになる。

注：球がT I Oの最も外側のふちの下にある場合、そのふちが地面に向けて下に伸びていなくても、その球はT I Oの下にある球である。

3. 救 済

プレーヤーは、T I O(アウトオブバウンズにあるT I Oを含む)による障害から次の救済を受けることができる。救済を受ける場合には、

(a) スルーザグリーン

球がスルーザグリーンにあるときは、(a)ホールに近づかず、(b)このローカルルール2項に示す障害を避けられる、(c)ハザード内でもパッティンググリーン上でもない場所で、球のある箇所に最も近い地点をコース上に決めなければならない。プレーヤーは罰なしに球を拾い上げ、その地点から1クラブレンジ以内に、前記(a)、(b)、(c)の3条件を満たすコース上の箇所にドロップしなければならない。

(b) ハザード内：球がハザード内にあるときは、プレーヤーは球を拾い上げて、次のどちらかの処置をとらなければならない。

(i) 罰なしに、完全な救済を受けられるコース上の最も近い箇所をハザード内に決めなければならないという点と、球もそのハザード内にドロップしなければならないという点を除き、他はすべて前記3(a)に準じてドロップ。完全な救済を受けることができないときは、そのハザード内で最大限の救済を受けられるコース上の箇所に、ドロップ。

(ii) 1打の罰のもとに、そのハザードの外にドロップ。この場合、(a)ホールに近づかず、(b)このローカルルール2項に示す障害が避けられ、しかも(c)ハザード内でない所で、球のあった箇所に最も近い地点をコース上に決めなければならない。プレーヤーはその地点から1クラブレンジ以内に、前記(a)、(b)、(c)の3条件を満たすコース上の箇所に、ドロップしなければならない。3項に基づき拾い上げた球はふくことができる。

注1：球がハザード内にある場合、このローカルルールにかかわらず、適用できるのであればプレーヤーは規則26か、規則28に基づき処置することができる。

注2：このローカルルールによりドロップしなければならない球がすぐに取り戻せない場合は、別の球に取り替えることができる。

注3：委員会は次のようなローカルルールを作ることができる。

- (a) T I Oよりの救済を受ける際に、指定ドロップ区域を使用することをプレーヤーに認めたり、その使用をプレーヤーに要求するローカルルール。
- (b) このローカルルール3項により決定した地点の、T I Oをはさんだ反対側に拾い上げた球をドロップすることを(それ以外の点についてはこのローカルルール3項に従っていることを条件として)、追加の救済処置としてプレーヤーに認めるローカルルール

例外：プレーヤーの球がT I Oの(中や上や下ではなく)前か後ろにある場合

で次のときには、プレーヤーはこのローカルルールの3項による救済を受けることはできない。

- (1) T I O以外の物による障害のために、ストロークすることが(「介在」)の場合には、ホールと球を結んだ直線上に球を運んで行くようなストロークをすることが明らかに無理なとき。
- (2) T I Oによる障害が明らかに不合理なストローク、不必要に異常なスタンスやスイング、プレーの方向をとることによってだけ起きるようなとき。
- (3) 「介在」の場合では、そのT I Oに届くほど、プレーヤーが球をホールに向けて遠くに打つことができると期待するのは明らかに無理と思われるとき。

前記の例外により救済を受けることができないプレーヤーは、球がスルーザグリーンやバンカー内にあるとき、適用できるのであれば規則24-2bに規定する救済を受けることができる。球が、ウォーターハザード内にあるときは、プレーヤーは救済のニヤレスポイントをウォーターハザード内に決めなければならないという点と、その球はウォーターハザード内にドロップしなければならないという点とを除き、規則24-2b(i)に従って、球を拾い上げてドロップするか、規則26-1の処置をとることができる。

4. T I Oの中で見つからない球

見つからない球がT I Oの中や上、下にあることが分っているか、ほぼ確実な場合、プレーヤーは、適用できる場合、このローカルルールの3項か5項に従って球をドロップすることができる。なお、このローカルルールの3項と5項の適用に限っては、球がそのT I Oの最も外側の縁を最後に横切った地点にその球はあるものとみなされる(規則24-3)。

5. 指定ドロップ区域

プレーヤーにT I Oによる障害が生じた場合、委員会は指定ドロップ区域の使用をプレーヤーに認めることができ、また使用を求めることもできる。プレーヤーが救済を受けて指定ドロップ区域を使用する場合は、球があった箇所(またはこのローカルルールの4項によるみなし地点)に最も近い指定ドロップ区域(たとえその指定ドロップ区域の方がホールに近づくことになってもよい)に拾い上げた球をドロップしなければならない。

注：委員会は、指定ドロップ区域の方がホールに近づくことになるときはその使用を禁止するローカルルールを作ることができる。

このローカルルールの違反の罰は2打。

11. 臨時の動力線とケーブル

臨時の動力線、ケーブル、電話線およびこれらを被っているマットや支柱は障害物である。

1. これらの物がたやすく動かせる場合には、規則24-1が適用となる。
2. これらの物が固定されていたり、たやすく動かせない場合で球がスルーザグリーンやバンカー内にあるときは、プレーヤーは規則24-2bに規定する救済を受けることができる。球がウォーターハザード内にあるときは、プレーヤーは救済のニヤレストポイントとそのウォーターハザード内に決めなければならないという点と、その球はそのウォーターハザード内にドロップしなければならないという点を除き、他はすべて同規則24-2b(i)に従

規則 33-7 に決められているような、罰を免除する正当な事情がなければ、そのプレーヤーは**競技失格**となる。

(c) プレーの中断と再開の合図について

通常のプレーの中断：短いサイレンを繰り返して通報する。

または、サイレンを使用せず本部より競技委員を通じてプレーヤーに連絡する。

険悪な気象状況による即時中断：1回の長いサイレンを鳴らして通報する。

プレーの再開：1回の長いサイレンを鳴らして通報する。

7. 練習

ホールとホールの中の練習禁止(規則7注2)『附属規則 I (B) 5 b』(ゴルフ規則 181 ページ参照)【中部オープン本戦には適用しない】

ホールとホールの間では、プレーヤーは最後にプレーをしたホールのパッティンググリーン上やその近くで練習ストロークをしてはならないし、球を転がすことによって最後にプレーしたホールのパッティンググリーン面をテストしてはならない。**この条件の違反の罰や処置は『附属規則 I (B) 5 b』を適用する。(ゴルフ規則 181 ページ参照)**

8. 移動

委員会が別途認めた場合を除き、プレーヤーは、正規のラウンド中、いかなる移動用の機器にも乗ってはならない。ただし、キャディーはカートを使用することができる。プレーヤーが前のストロークをしたところから次のストロークをする場合と規則 11-4、11-5、15-3 と 20-7 c にしたがって誤りを訂正する場合はその処置のために往復の範囲内において乗用カートを使用することができる。**この条件の違反の罰や処置は『附属規則 I (B) 8』を適用する。(ゴルフ規則 183 ページ参照)**

9. キャディー(規則 6-4 注)

正規のラウンド中、プレーヤーが委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用することを禁止する。**この条件の違反の罰や処置は『附属規則 I (B) 2』を適用する。(ゴルフ規則 179 ページ参照)**

10. スコアカードの提出 (裁定 6-6 c / 1)

スコアリングエリア方式を採用する。

11. タイの決定

タイの決定は該当する競技規定に定めるか、委員会によってゴルフコースで公表される。

12. ゴルフシューズ

正規のラウンド中、プレーヤーが金属製・セラミック製、または委員会がそれと同等と認めた鋳を有するゴルフシューズを使用することを禁止する。**この条件の違反の罰は競技失格とする。**

13. 競技終了時点

本競技は、競技委員長の成績発表がなされた時点をもって終了したものとみなす。

14. 競技の短縮

委員会は、コースの状況により適正なるプレーが不可能と判断した時、競技規定に定めてあるラウンド数を短縮することができる。

注 意 事 項

1. ローカルルールや競技の条件に追加、変更のあるときは、スターティングホールのティーインググラウンド付近に告示する。
2. 競技の条件1 2項で規制されるシューズ以外でもパッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
3. プレーの進行に留意し、先行組との間隔を不当にあけないよう注意のこと。プレーを不当に遅らせた場合は、ペナルティを課す。
4. 競技委員会は規則33-7に基づき、すべての競技関係者、ギャラリーへの暴言等を含めエチケットの重大な違反があったプレーヤーを競技失格とすることができる。
5. 練習は指定練習場にて行い、打ち放し練習場においては備え付けの球を使用し、スタート前の練習は1人1袋(24球)を限度とする。
6. ティーマーカーは青色とする。
7. プレー中、帽子(バイザー可)を着用すること。
8. 中部ゴルフ連盟ならびに会場クラブの服装規定を遵守すること。服装規定に違反があった場合、初回は注意し、着替えてもらうことが望ましい。改まらない場合、競技委員会は競技中を含めいつでも競技者の参加資格を取り消すことができる。
9. コース内は、携帯電話の使用をしないこと。

- 追 記
1. ハウス食堂(朝食)は、午前6時よりオープン。
 2. 練習場は、午前6時よりオープン。
 3. 昼食はハウス食堂およびコース売店を利用のこと。
 4. バッグは口径9.5インチ、重量は13キロを超えないこと。

競技委員長 泉 憲 一

指 定 練 習 日

8月10日(木)・14日(月)・15日(火)のうち2日間は連盟料金(会場倶楽部会員並扱い)とする。ただし、15日(火)は午後3時までにプレーを終わること。指定練習日のスタート時間は前もって愛知カンツリー倶楽部に申し込み予約すること。なお、キャンセルする際は、会場の規定によりキャンセル料が掛かる場合がある。予約時に会場に確認すること。また、練習ラウンドは1個の球でプレーすること。

TEL 052-701-1161